

総務文教委員会会議録

1. 開催年月日

平成28年12月 1日 開会 9時29分 閉会 10時00分

2. 開催場所

委員会室

3. 出席委員名

三宅文雄 西村慎次郎 藤原浩司 簗戸利昭
藤原清和 森本典夫

4. 欠席委員名

上野安是

5. その他の会議出席者

(1) 副議長 西田久志

(2) 事務局職員

事務局長 川田純士 事務局次長 岡田光雄
主査 柳本兼志

6. 傍聴者

(1) 議員 0名

(2) 一般 0名

(3) 報道 0名

7. 発言の概要

委員長（三宅文雄君） 皆さんおはようございます。

ただいまから総務文教委員会を開会いたします。

〈所管事務調査事項について〉

委員（西村慎次郎君） 資料のほう既にお配りいただいていると思うんですが、私のほうで整理させていただいた資料は交通弱者分布図という資料と、あとA4縦の地域別、年齢別、男女別人口、平成28年3月末現在の一覧と、あと様式1ということでA3の用紙ですけど、井原市公共交通路線一覧表というものと、あと様式2ということで井原市スクールバス車両一覧表という資料です。4種類です。

様式2については、執行部のほうから提出していただいたものをそのまま張りつけているという形でまとめてあります。様式1については、執行部から分厚たくさん資料いただいている中から抜粋というか、ここから数字を拾って一覧表のほうが見やすいと思ってまとめさせていただいております。

まず、地域別、年齢別、男女別人口ということで、これは市民課さんのほうから情報をいただいて、住民基本台帳上の数字を提供いただいたものをベースにまとめております。

住民基本台帳上ではこれぐらい、小学校区よりももう少し細かく町別、1丁目、2丁目というのがあれば1丁目、2丁目別、あと芳井町とか美星町については字というところまで分類して住所というか人数の管理をしたいということで、それをベースにまとめております。

地区名が左にあって、その地域の合計人数をその横に書いて。今回調査しようとしていた人数ということで、18歳以下の人数、それから65歳以上の人数ということで、それぞれの合計を出していますけども、内訳があったほうがいいかなということで未就学児、ゼロ歳から6歳、小学生が7歳から12歳を想定して、中学生が13歳から15、高校生が16歳から18歳ということで、それぞれ18歳以下の人数の内訳を地域ごとにまとめさせていただいております。65歳以上については、75歳以上という後期高齢者ということになるかわかりませんが、75歳以上と65歳から74歳までの人数を内訳もわかるようにして合計を書いています。19歳から64歳についてはもう合計値だけ出しています。

この数字をベースに地図上に落とすと、もう少しどころ地域が高齢者が多いねとか子供さんが多いねというのがわかりやすいかなと思って、交通弱者分布図ということで真ん中に井原市の地図を載けて、それにそれぞれ今の縦の地域別の人口の人数をそれぞれ3つの層に分けて人数を吹き出しで書いております。

ちょっと字の辺までどこら辺がどういう地域かというのがわからないところもあったんですが、何となく地図上で調べながらここらあたりにこれぐらいの人数が住まれているということで見たいなということなんです。①が18歳以下の人口、②が19歳から64歳の人口、③が65歳の人口ということで合計も書いております。参考にさせていただきたい。

理想はこれに路線図が乗ってきて、こういう地域にこういう路線が走っているよというのがわかってくるともっとわかりやすいでしょうけど、そこまで私もようしませんという

か、できませんので、これと路線図は執行部から提供されている公共交通マップというのを見ていただきながらこれと照らし合わせながらこのあたりにこれだけの人がおって1日どれぐらいあいあいバスとか幹線バスが走っているか、乗り合いタクシーが走っているかというのを見ていただいて、課題とかを見つけていただきたいなというふうに思っています。これが人口の状況です。

それから、A3判の様式1についてですが、これは執行部から出てきている資料を、先ほども言いましたけど、数字をこれを一枚一枚めくりながら見るというのは非常に見づらいつ思いましたので、一覧表にまとめてみえています。

もう少し内訳が知りたいよというこの執行部からの資料を見ればもう少し人数なんかの内訳は見えますので、これを見てちょっと気になるころがあれば細かく見たいときは執行部からの資料を見ていただきたいなと。全体感はこれで様式1でつかんでいただいて、気になるころをピックアップしていただくというふうにしていただきたいなというふうに思っています。

様式①の内容については、枠としては前回の委員会の中でご説明した、縦に路線の1番が井原鉄道、2番から9番が幹線バスということで井笠バスカンパニーですとか北振バスとか備北バスですとか、備北バスは12月から、きょうから路線が廃止ということでなっておりますけども。10番から20番があいあいバスの運行ということで、21から30が予約型乗り合いタクシーの内容です。

横に運行収入、基本3年間の推移を見えるようにしています。それから運行費用、あと井原市が補助している額。補助額のケースもありますし、場合によったら委託料という委託金額という出し方の区分もあります。

それから、横に登録者数というのは予約型乗り合いタクシーというのは事前登録ということになるのですが、年度ごとの登録者数はわからず、最新の状態と人数と資料提供あったので、それを書いております。

それから、運行便数ということで、まず説明としてそれぞれ便数が路線ごとにどれぐらいあるかというのを、時刻表を執行部からいただいたのでその時刻表を見ながら便数をカウントして、幹線バスとかについては記載をしております。

年度別の運行実績については、幹線バスはわかりませんでしたので、ほかの部分は載せております。これぐらい走っております。年間なので1日とか割り算してみないと、説明にあるような1日、あいあいバスでは7便とか6便とか4便とか、そういう状況ではあります。

資料提供いただいているのが、平日と土日祝日は別にという要求はしたんですが、結果的には合計でしか出てこなかったもので、合計で見ていただくしかないかなと思っています。

それから、様式1の2ページ目のほうですけども、今度は便数の後の利用者数ですけど、井原鉄道の人数が消えているんですが、メモしていただければ、25年度の合計が109万8,368人、26年度が111万2,178人、27年度が115万3,467人、年々鉄道の利用はふえているという状況です。そのほかの路線、幹線バスとかあいあいバスとか予約型乗り合いタクシーについても執行部からのいただいた資料をもとにここへ転記をしています。

あと、1便当たりの利用者数というのは、前のページにあった運行便数で利用者数を割っています。利用者数を年間当たりの運行便数で割った値がこれです。ということで、幹線バスは運行便数がわからないので、計算結果がないという状況で、あいあいバスについては例えば嫁いらず観音院線であれば平成27年度は6,45人、1便当たり6人ないし7人が利用されているということで見てください。それから、定期券の購入者数については情報が無いということで、資料提供いただいていないのでわからなかったという状況です。

このあたりも今後検討していく上で必要であれば再度要求はしていく必要あるんですけど、今回多分時間的な問題もあって、執行部が手元に持たれている情報をベースに情報提供いただいている、資料提供いただいているので、各バス会社とか運行会社へ確認しての情報提供なのですが、その範囲内でしか情報提供いただいていたところ、今抜けている状態ではあります。これ以上細かく突っ込む必要があれば当然必要だと思うんですけど、今後どういう分析をしていくかで、今の情報でできるのであれば今の情報で整理を進められたらというふうに思います。

ちょっと私が見ていて気になったのが利用者数のところで、利用者数というのは幹線バス、井原笠岡線とか井原福山線とかという路線バスの利用者数は年に1回、1週間ぐらい実際の乗車人数の調査をされているんです。1日ずっと1週間、全部の便に乗ってどれぐらい人が乗っているかという調査をされて、それをベースに単純に50週あるから50週と掛けているわけじゃなくて、それをベースにしたときにその1週間で何人乗って、運賃収入が何ぼあったというのをまず出して、年間の乗車人数というのは毎回何人乗ったとかといってカウントされていないので、年間の運賃収入が幾らあったというのをベースに、さっきの1週間調査したときの平均運賃で年間の運賃収入を割り算して何人乗ったというような出し方をされているんじゃないかと、じゃないかだったんですけど、最終的にちょっと執行部へ確認してないんで、あいあいバスとか予約型乗り合いタクシーはもう一人一人人数をカウントされているんですけど、路線バスについてはそういうふうな計算で概算で算出しているという、なんで、大きく違いはないんだと思うんですけど、そういう……。

委員（森本典夫君） 定期の人やこうどがんなるかな。金に入らんな。

委員（西村慎次郎君） 運賃収入には入っていると思います。けど、年間とか3カ月定期とかというカウントされているので、実際に……。

委員（森本典夫君） 乗っとるか乗ってないかはわからん。

委員（西村慎次郎君） わからない。1週間の運賃収入というときにはカウントされんかもしれんですね。年間の運賃収入にはカウントされていても。

委員（森本典夫君） 1週間は、定期がそれこそ10人ずつ1週間乗っとったら70人が金にはなってねえわな。へじゃけ、そうなりやどうなるんかというのようわからんけど。

委員（西村慎次郎君） あと、様式には井原市が保有しているということで、今スクールバスは井原市のバスを委託会社が運転手さんが乗って運行しています。あいあいバスは全て委託先の北振バスさんが準備されて運行されているので、この車両一覧表上には載ってきていないというところです。

今後、課題、あいあいバスの乗車人数見られて、今のあいあいバスの大きさがもう少し縮小というような提案が書いてあるとかということを考えても、結局井原市が保有していないというところではあるんで、運行会社さんがどう考えているかと、今現状がどれぐらいな年数なのかというのが把握できていないという状況で。

一応私のほうで整理したのは以上です。

委員（藤原清和君） 西村さん、様式1のそれぞれあれがあるが、運行収入やこうが書いてるやつが、これ井原市の補助金じゃ負担額というのは、ここはもう単位は円なんじゃな、これ下は。1,000円単位じゃねんじゃろ。円単位じゃな、これは。

委員（西村慎次郎君） 運行収入は1,000円……。

委員（藤原清和君） この補助金とか負担額あるでしょう。

委員（西村慎次郎君） ここは円。

委員（藤原清和君） ここは円単位。

委員（西村慎次郎君） 円単位。そうですね。鉄道だけ1,000円。井原鉄道だけ1,000円。あとは全部円単位です。

委員（藤原清和君） べらぼうな金額じゃな。

委員（藤原清和君） 執行部から出されたものをええようにまとめてもらって、一覧表にしてもらってようわかると思うんです。これはもうこれで状況判断ということになると思いますけども、いろいろうちが調査するということはいろんなことが出ておりましたが、この辺もうちょっと本数をふやしてほしいとか、そういうところはどういうふうに組み込まれていくかということが課題になってくるかな。そこら辺の皆さん方から意見いただいていることについて、この辺どういうふうに入って行くか、行けるか行けんのんかということも判断

せにゃあいけんから、それが一番重要なかなと私は思よんですけど。うちへ要望たくさんあるのをまとめましたが。それがどういう、ここへ組み込まれていけるかというのを、山間部のほうでは全然1日に1本か2本しか来ないんじゃないかと、もっと本数ふやせとかという、そういうことができるんかどうかということ、そういうことを私らは研究する言うたでしよう。答え出していこう言うたがなかなか容易じゃないことないんじゃないけどやらざるを得んのかな思いましたが。

これ状況はようわかります、こうしてもらったら。どういような状況じゃ、現在の状況こうなんじゃと。新しく先ほど何かバスが運行、今月から、12月から運行かな。

委員（森本典夫君） 廃止じゃ。

委員（藤原清和君） 廃止になるん。それはますますあれじゃ。

いろんな意見出していただいとる人らの意見がどこへ組み込まれていくかということを一遍チェックせにゃいけんのかな思よんですけど。これは状況も確かにこういうふうにしてもらったらようわかる。どこから何人乗りようってんかということのもようわかるし。

この説明受けたことについては、別段問題ないと思います。

委員（簀戸利昭君） 質問じゃないんですけども、膨大な資料をまとめていただいて、大変ありがとうございます。

これをどうやってどこを中心にやっぱり、藤原委員も言われましたが、どこを中心にやっっていくかというのを選んでいかんと、情報としては非常にありがたいんですが、それぞれの委員の意見でもよろしいし、また市民の声を聴く会の中で取りまとめた意見を中心にやるのかどうなのか。当然補助金の話にもなりましようから、そこらをどういうふうな形でやられるのかを話し合ったらいいんじゃないかなという気はします。

委員（藤原浩司君） 膨大な資料の中でこれだけ簡素にまとめていただいて、本当に見やすいです。本当にわかりやすいです。あとは足りないところは先ほど西村副委員長も言われたように、1便当たりの利用者数というのがなかなか把握できていないというのが資料的でないということなんで、これは除いたとして、先ほど藤原委員も言われたし、簀戸委員も言われたんですけど、市民の声を聴く会の集約をもって、それに対してこれを調査したものを当てはめていけばいいのかなと、そのように思いました。

ただあと懸念されるのが、路線的に人数がどのぐらいというふうなちょびっと資料出ていました、平均が6人とか言っておられましたので、この辺が3人のところもありましようし1人のところもあると思うんです。そういうところはこういうふうにしていくべきかということもあわせて考えていかねば、やっぱり端端の人たちは車に乗れないというような形になるんで、それは乗り合いタクシー入れるにしても、そういうことも踏まえた上でやっていけ

ばいいのかと。もう資料に関しては何も問題ないです。ありがとうございます。

委員（森本典夫君） 質問じゃないんですけど、これから煮詰めていくということになるわけだけでも、この委員会として公共交通のこういうこれから協議をする中で獲得目標をどうするのか、どこへ置くのかというのをまず決めて、それでそれに向けて集中的にいろいろ資料に基づいてやっていくという形にしないと、ぼっと広いんで、そういう意味では獲得目標をこのことについて今いろいろ意見も出て市民の声を聴く会でも出された声を参考にしながらまとめていくという話もありましたけども、何をどうするかという獲得目標をよう協議して、それを、言ってみればそこだけということにはならないと思いますけど、集中的にそこをやっていくというふうな形にしないとなかなか難しいなというふうに思うんで、そこらあたりが何かまとまればいいがなというふうな気が僕はしております。

委員長（三宅文雄君） それでは、委員の皆様方から大分次の課題整理についての話が出ておりますけれども、一応先ほど副委員長から現状についての資料についてのご説明がございましたので、現状把握につきましては本日はここまでにしたいというふうに思います。

続きまして、先ほど来、るる出ておりますが、今後の課題整理についてでございますが、執行部から提出いただきました資料及び西村副委員長提出の資料に基づき今後課題整理を行っていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員（簀戸利昭君） 結構です。

委員（藤原清和君） 森本委員も言われたように、どこへ重点置いてやっていくかということも明確にしながら、それをだっと広げてしもうてから、何もかんもということにならないと思うから、先ほど言うておりますようにいろんな意見出ていることについてこの範囲のものもは考えていこうやということになってくるんじゃないかな思っておりますけども。

〈なし〉

委員長（三宅文雄君） それでは、ないようでございますので、次回の委員会において課題整理についてご協議願いたいと思います。

次に、次回委員会の開催日について、皆様方のご意見を求めます。

委員（簀戸利昭君） 12月5日の開会日に全協後に常任委員会があると思うので、その場でということではいかがでしょうか。

委員（森本典夫君） その日は所管事務調査、どうするかという、新しいのがあるかないかということだけで終わりじゃと。時間は十分あらあな。

簀戸委員が言われたような形で、5日に課題を出し合うて、今度は議会中の何日じゃった

か忘れたけど、その日に、より突っ込んだ話をするというところでどうでしょうか。

委員長（三宅文雄君） それでは、ただいまご提案のありました、次回は12月5日の全協の後の委員会において協議することに決定したいと思います。

以上で所管事務調査事項については終わります。

〈その他〉

委員長（三宅文雄君） 次に、その他でございますが、こちらからは特にありませんが、委員の皆様方から何かございますでしょうか。

〈なし〉

委員長（三宅文雄君） ないようでございますので、以上で総務文教委員会を閉会いたします。ご苦労さまでございました。